

BCG ワクチン予防接種について



BCG ワクチンは抵抗力（免疫）の弱い赤ちゃんが結核を発症したり、重い症状の結核になることを防ぐために接種します。

結核は結核菌の感染で起こります。我が国の結核患者はかなり減少しましたが、まだ2万人前後の患者が毎年発生しているため、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力（免疫）は、お母さんからお腹の中でもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。乳幼児は結核に対する抵抗力（免疫）が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

BCG は、髄膜炎や粟粒結核などの重症になりやすい乳幼児期の結核を防ぐ効果が確認されています。

*BCG ワクチンの対象年齢・接種回数は？

対象年齢は1歳未満（標準的接種期間は生後5ヶ月～8ヶ月）で、1回のみの接種です。



*BCG ワクチン(生ワクチン)について

牛型結核菌を弱毒化してつくったワクチンです。接種方法は管針法といってスタンプ方式で、上腕の2箇所を押しかけて接種します。接種したところは、日陰で乾燥させてください。10分程度で乾きます。

接種後10日頃に接種局所に赤いポツポツができ、一部に小さい膿ができることがあります。この反応は接種後4週間頃に最も強くなりますが、その後は、かさぶたができて接種後3ヶ月までには治り、小さな傷跡が残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG 接種により免疫が付いた証拠です。包帯をしたり、バンソウコウを貼ったりしないで、そのまま清潔に保ってください。

*BCG ワクチンの副反応について

接種をした側のわきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。接種局所がただれたり、大変大きく腫れたり、まれに大きな膿になる事があります。きわめて稀にアフリキシ、骨炎、全身播種性 BCG 感染症がおこることがあるといわれています。気になる症状がある時は、医師にご相談ください。

お子さんが接種前に身近な人から結核菌に感染している場合は、接種後数日間にコッホ現象が起こることがあります。通常の反応における接種局所の反応の発現時期（概ね10日前後）よりも早い段階で発現します。コッホ現象と思われる反応が見られた場合は速やかに医療機関を受診して下さい。

コッホ現象：接種局所の発赤・腫脹及び接種局所の化膿が現れ、通常2週間から4週間後に発赤や腫脹がおさまり、消炎、瘢痕化し治癒する一連の反応

*ワクチン接種後の注意

- ①接種後30分間程度はショックやアフリキシがおこることがありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
- ②接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③接種後4週間は体調に注意しましょう。また、接種後腫れが目立つ時や機嫌が悪くなった時などは、医師にご相談ください。
- ④このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、4週間以上の間隔をあける必要があります。
- ⑤接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことは止めましょう。
- ⑥接種当日は激しい運動は避けてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

*「予防接種と子どもの健康」より抜粋